

次世代のITワークフォーススキル

SOA時代のテクニカルコンサルタント像とは・・・

～SAPベシスコンサルタント/SAP NetWeaver®コンサルタントから
テクニカルアーキテクト/テクノロジーエキスパートへの進化～

SAP CERTIFICATION VOL.3～VOL.4で「～ERPコンサルタントからの脱却と進化～」というタイトルで、SAPコンサルタント全体のコンサルタント像についてのお話がありました。本号では、SAPテクニカルコンサルタントに焦点を当て、SAPベシスコンサルタント、SAP NetWeaver®コンサルタントと言われる方々が、どのようにしてテクニカルアーキテクト、テクノロジーエキスパートへ進化していくかについてお話をいたします。

【SAPテクニカルコンサルタントの変遷】

今までSAPテクニカルコンサルタントは、SAPベシスコンサルタントからSAP NetWeaver®コンサルタントへと進化してきました。昨今のサービス指向アーキテクチャ(SOA)の市場における広がりにあわせ、今後はテクニカルアーキテクト、テクノロジーエキスパートへと進化していく予定です。新しいロールを目指すに当たり求められるスキルが一変するかという答えは“No”です。今まで皆様が身につけてきたスキルに、新しいスキルを積み上げ

方式で習得していくことになります。図1は、SAPテクニカルコンサルタントの変遷と求められるスキルの概要をまとめたものです。現在SAPベシスコンサルタントやSAP NetWeaver®コンサルタントとしてご活躍中の皆様がテクニカルアーキテクトやテクノロジーエキスパートにシフトするためにはどうしたらよいのでしょうか。ここからは、テクニカルアーキテクトとテクノロジーエキスパートのそれぞれの定義と必要なスキルについて説明していきます。

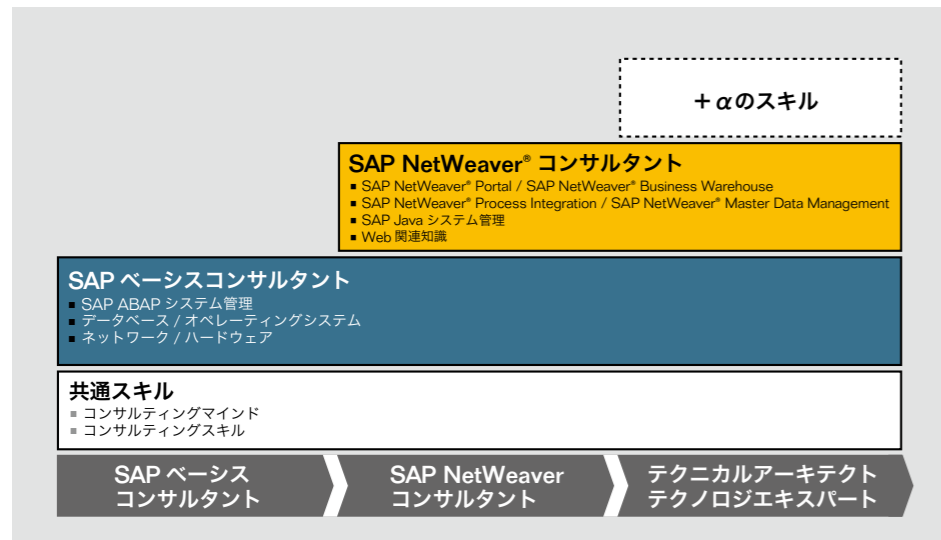


図1: SAPテクニカルコンサルタントの変遷

【テクニカルアーキテクト】

テクニカルアーキテクトとは

テクニカルアーキテクトの定義:
「技術の領域において、顧客要件を正確に把握し、費用対効果、製品の品質、実現可能性を鑑みながら、把握した要件をシステム落とし込む人」

テクニカルアーキテクトは、ある特定の製品に特化するのではなく、システムの全体を鳥瞰することが重要になります。

上記の定義に基づくと、テクニカルアーキテクトには、ヒューマンスキル、ビジネススキル、テクノロジースキルの3つが求められるとともに、この3つのスキルを高いレベルでバランスを取ることが重要となります。以下にSAP NetWeaver®コンサルタントがテクニカルアーキテクトになるために必要なスキルを記述いたします。

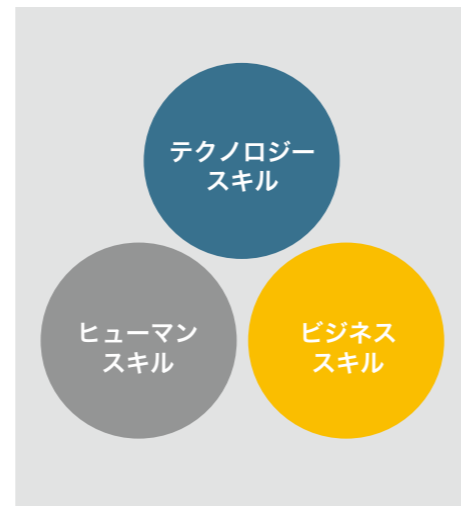


図2: テクニカルアーキテクトに求められるスキルイメージ

テクニカルアーキテクトに求められるスキル

1. ヒューマンスキル

- 顧客の考えを聞き、自身のフィルタをかけずに顧客が真に実現したいことを正確に引き出すための『ヒアリング力』
- 顧客からヒアリングした内容を正確に整理するための『ロジカルシンキング力』
- ヒアリング・整理した内容からアーキテクチャを設計するための『コンセプトメイキング力』
- 設計したアーキテクチャに対して自己批判的に問題点がないかをチェックするための『クリティカルシンキング力』
- 設計したアーキテクチャを顧客にわかりやすく説明し、納得、合意してもらうための『説明力』

2. ビジネススキル

- システム導入にかかる費用とシステムの導入効果を算出するための基本的な会計、ファイナンス力

3. テクニカルスキル

- サービス、サービスリポジトリ、サービスバスといったSOAの基本概念に関する知識
- システムのモデリング手法とモデリングツールの知識
- 最新の製品・技術動向に関する知識

ヒューマンスキルとビジネススキルに関しては、これまでのキャリアの積み方によって難易度が異なってくると思います。今まで顧客にコンサルティングをするにあたって、意識してきた方にとっては比較的容易だと思いますが、たいていの方にとっては数居の高い領域だと推測されます。しかし、テクニカルアーキテクトになるには必須のスキルですので、ひとつずつ習得していく必要があります。また、ヒューマンスキルとビジネススキルは技術と異なり比較的变化の少ないものですので、いったん身につけると使い続け

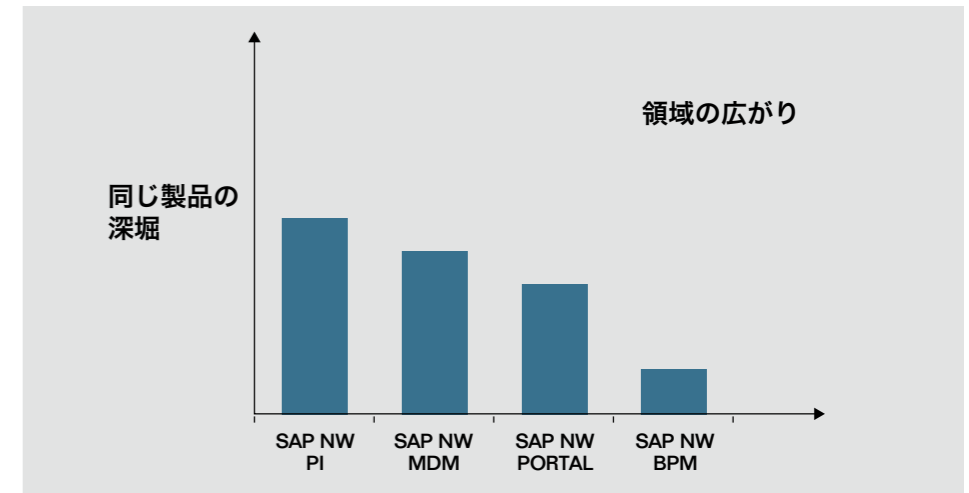


図3: テクノロジーエキスパートに求められるスキルイメージ(例)

られるという側面もあります。

一方、テクニカルスキルに関しては今までテクニカルコンサルタントとして働いてきた方にとって、ARIS等に代表されるモデリングツールの知識以外は目新しいものではなく、習得しやすいと思います。最新の製品・技術動向に関しては、一つ一つの製品の機能を詳細に理解するのが目的ではなく、製品の基本コンセプトを抑えることが重要になります。なぜなら、テクニカルアーキテクトに求められるのは製品をどう顧客の環境で使うかを考えることであり、製品の細かい設計や設定をすることではないからです。

さて、ここまでのスキルに対する説明をお読みいただいた方の中には、プロジェクト進捗を管理する『プロジェクトマネジメント』に関する記述がないことに気づいた方もいらっしゃると思います。テクニカルアーキテクトは費用対効果や品質に関しては考慮いたしますが、プロジェクトの進捗管理は作業対象外になります。SOA時代においても『プロジェクトマネジメント』に関してはプロジェクトマネージャの仕事です。

ヒューマンスキル、ビジネススキルの習得方法

テクニカルアーキテクトに求められる5つのヒューマンスキルとビジネススキルに関しては、昨今IT業界以外でも必要性が語られており、書籍が市販され、ノウハウを提供する研修も増えてきています。したがって自習することも社内研修を受講して身につけることは可能だと思います。ただし、一度にすべてのスキルを身につけるのは難しいので、1年から2年の期間ですべてのスキルを身につけることを目指し、ひとつのスキルを2ヶ月から3ヶ月単位で習得する計画を立てると効率的に身につくと考えられます。身につけたスキルはすぐに実践で使い、ブラッシュアップしていくことも重要です。

ここまでで、いったんテクニカルアーキテクトに関する記述を終え、次にテクノロジーエキスパートに関して記述いたします。

(次ページへ続く)

【テクノロジーエキスパート】

テクノロジーエキスパートとは

テクノロジーエキスパートの定義：
「担当する技術領域に関する専門家、個々のシステムの設計と構築、運用の設計と顧客に対する引継ぎをする人」

今までのSAPテクニカルコンサルタントの進化系になるので、テクニカルアーキテクトよりイメージが付きやすいと思います。

上記の定義に基づくと、テクノロジーエキスパートには、技術に関して横の広さと縦の深さの追求が必要です。

テクノロジーエキスパートに求められるスキル

1.SAP製品のスキル

■SAP NetWeaver スキルの横展開：

今までのSAP NetWeaver® コンサルタントはひとつの製品のエキスパートである傾向が強かったと思われませんが、今後は一人のコン

サルタントのマルチスキル化が求められます。たとえば、SAP PIのコンサルタントの方が、SAP MDMのスキルを身につけるようなマルチスキル化は重要になります。

■SAP NetWeaver スキルの深堀：

今まで同様に、ひとつの製品スキルを深堀していくことも重要です。SAP NetWeaver製品はバージョンを重ねるにつれて、新機能の追加が行われていきます。顧客に最適なソリューションを提供するという観点から、最新の製品情報を追いつけることも重要です。

2.テクニカルスキル

- サービス、サービスリポジトリ、サービスバスといったSOAの基本概念に関する知識
- 最新の製品・技術動向に関する知識
- お客様先で使用されているSAP以外の製品に関する知識

今までのSAPテクニカルコンサルタントはある領域のSAP製品に関するエキスパートである要素が強かったと思います。これからの時代、

テクノロジーエキスパートに求められるものはSAP製品スキルのマルチ化と各製品の知識の詳細化、そしてSAP以外の製品に関する知識の拡張です。

今までのプロジェクトでは、SAP製品だけを知っていれば大きな問題はありませんでしたが、SOA時代においては、顧客先にあるシステムや製品との関係が重要になります。したがって、テクノロジーエキスパートになられる方は、製品知識の領域の広がりをも意識していただくとういと思います。

【顧客先への参画時期と役割】

ここまで、テクニカルアーキテクトとテクノロジーエキスパートに関して記述してきました。では実際に、テクニカルアーキテクトとテクノロジーエキスパートはどのようにかわり仕事を進めていくことになるのでしょうか？

図4にあるようにSAPのSOA方法論には全社レベルの活動と個々のプロジェクトの活動があります。最初に、テクニカルアーキテクトが少数で顧客先に訪問し、顧客の既存のシステムを理解し整理すると共に、全社レベルの顧客のシステム全体像やアーキテクチャを描きます。

システム全体像やアーキテクチャを顧客と決定した段階で、必要となる分野に詳しいテクノロジーエキスパートが参画し、個々のプロジェクトにおいて、システムを構築することになります。システム構築後はテクノロジーエキスパートが中心となり運用を設計することになります。

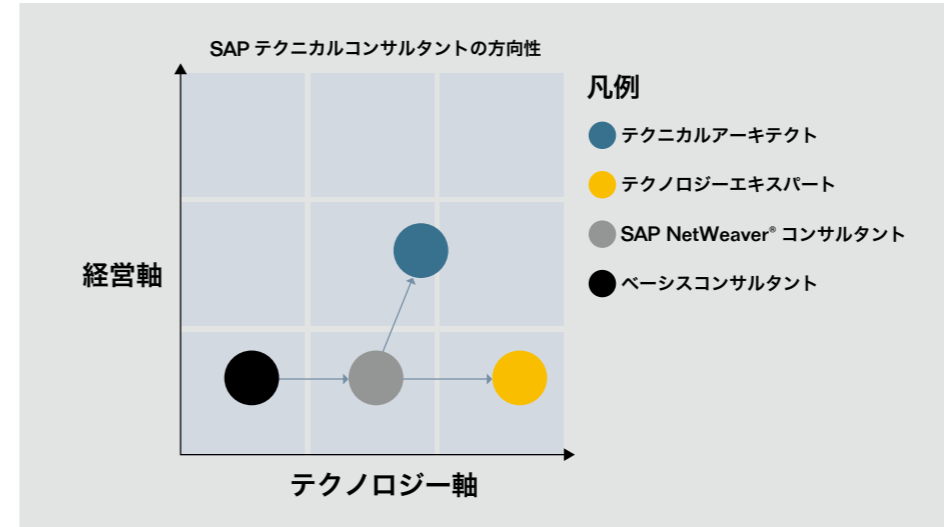


図5：SAPテクニカルコンサルタントの進化の方向性

【テクニカルアーキテクト、テクノロジーエキスパートのどちらを目指すか】

ここまで、それぞれの定義、必要とされるスキル、プロジェクトにおける役割を記述しました。皆様の頭の中にテクニカルアーキテクトとテクノロジーエキスパートのイメージがついたかと思えますので、最後にどちらを目指すかについて記述したいと思います。

まず簡単に両者を振り返りますと、図5のようにテクニカルアーキテクトはよりヒューマンスキルやビジネススキルの開発に力を入れ、経営軸のほうに自らをシフトしていく、一方テクノロジーエキスパートはさらにテクニカルスキルの開発に力を入れ、テクノロジー軸を極めることとなります。

どちらの業種を目指すかに関しては明確な答えはありませんが、目安となる判断基準はいく



つかあると思います。具体的には個人の現在保有するスキル、市場のニーズ、会社の目指す方向と必要とされるスキルが判断基準として上げられると思います。ただし、一番重要なのは皆様がどちらの方向を目指したいかという気持ちであると思います。

本記事が、今後の皆様のSAPテクニカルコンサルタントとしての方向性を決める一助になれば幸いです。

SAPのSOA方法論 (Methodology for Accelerated Transformation to SOA)

全社レベル

戦略とガバナンス (Strategy & Governance)

個々のプロジェクトレベル

SAPベースのプロジェクト導入方法論

プロセス設計 (BPM) システム構築 (Accelerated SAP-ASAP) 運用 (Run SAP)

全社レベル

システム基盤構築・運用 (Landscape Development & Operations)

図4：SAPのSOA方法論

1999年SAPジャパン入社。入社時よりSAPベーススコンサルタント・ベーススチームリーダーとして、製造業を中心に多様な業界のお客様にさまざまなSAP製品の導入を行う。SOA化の流れと共に、2008年よりSAPジャパンコンサルティング部門におけるSOAタスクフォースの推進役を務め現在に至る。運用容易性を考慮したシステム導入と技術・ビジネス双方の理解をモットーに日々のコンサルティングを実施している。SAP認定エンタープライズアーキテクト、ビジネスプロセスエキスパート

SAPジャパン株式会社
プロフェッショナルサービス本部
エンタープライズ & テクノロジーコンサルティング
シニアコンサルタント
山辺 大輔 (Daisuke Yamabe)